

会 議 録

- 議事内容 2024年度 8月定例教育委員会
- 日 時 令和6年8月28日(水) 13:30～16:45
- 場 所 4階会議室4-1
- 出席者 教 育 長 小西 博泰
教 育 委 員 河嶋栄里子・藤本真理・石原友紀・酒井秀彦
事 務 局 藤井教育指導部長
松田教育総務課長・市橋いきいき社会創造課長
竹内スポーツ振興課長・教育総務課 小畑

■【会議の内容】

1 開会あいさつ

・教 育 長

2 前回議事録確認

(全委員一致で承認)

3 報告事項

・令和6年度主要事業の進捗状況の説明及び教育委員からの意見聴取

■【学校教育課関連】

①第Ⅲ期教育振興計画の具現化【教育課程管理】

(進捗状況)

- ・全国学力・学習状況調査の結果の分析を開始している。(別紙詳細)
- ・GIGAスクールプロジェクトについては、50代及び60代の教員のスキル向上のため、夏休みに研修を6回行った。
- ・幼稚園の教育では、「預かり保育」の実施に向けて、9月議会で条例制定の提案をし、11月から試行運用ができるように準備を進めている。
- ・第13回兵庫教育大学連携「サイエンス祭」は、3部制の1日に短縮したが、250名の参加があった。

(今後の予定)

- ・新たな幼稚園に向けて、制服等の打ち合わせが必要になってくるため、準備を進めている。
- ・夏休み中、特別支援教育の関係で、就学個別相談を行っており、9月に4回、市の教育支援委員会を予定している。そこで、特別支援学級の入級や、特別支援学校への入学についての答申を打つことになっている。

②「チーム学校」を踏まえた学校組織マネジメントの強化とリスクマネジメント【危

機管理】

(進捗状況)

- ・『報・連・相』及び『4号報告(いじめ・問題行動等)』で報告。夏季休業中の4号報告は、なし。
- ・行き渋りや不登校が増えたという情報は、今日現在では、なし。
不登校の数は、例年右肩上がりが続いていたが、初めて、7月末で昨年度より減った。教育サポートセンター及び校内サポートルームの取組の効果がでてきているためだと思われる。

③人材育成と働き方改革【人的管理】

(進捗状況)

- ・今年は、臨時講師の研修会を手厚く行っているため、大勢の方が教員採用試験に合格してくれているのではないかと考えている。しかし、全員を小野市で採用できるわけではないところが、苦しいところである。
- ・サービス管理については、夏休み中に大きな交通事故や問題は起こっていない。

④学校教育課情報

1 市の取組

7月27日(土) 兵庫教育大学・小野市連携 サイエンス祭(エクラ)

2 学校の取組

○小・中・特別支援学校 修学旅行

- 9月 3日(火)～ 9月 5日(木) 河合中(東京方面)
- 9月12日(木)～ 9月13日(金) 河合小(奈良・京都方面)
- 10月 9日(水)～10月10日(木) 市場小・下東条小(奈良・京都方面)
- 10月15日(火)～10月16日(水) 小野小・来住小(奈良・京都方面)
- 10月16日(水)～10月17日(木) 小野東小(奈良・京都方面)
- 10月17日(木)～10月18日(金) 大部小・中番小(奈良・京都方面)

○小学校 自然学校

- 9月 2日(月)～ 9月 6日(金) 中番小(嬉野台)
- 9月 9日(月)～ 9月13日(金) 小野東小・河合小(南但馬)
- 9月23日(月)～ 9月27日(金) 市場小(嬉野台)
- 9月30日(月)～10月 4日(金) 小野小(嬉野台)、来住小(国立淡路)
下東条小(南但馬)
- 10月 7日(月)～10月11日(金) 大部小(嬉野台)

3 学校の状況等

○7月 4号報告 なし

○7月の不登校の状況 なし

4 全国学力学習状況調査の結果（速報）

- ・学力については、基本的に、全国平均及び兵庫県平均を上回っており、全国同等以上の結果となっている。
- ・ほとんどの市町は、デジタル端末の持ち帰りをしており、デジタルドリルやデジタル辞書等も導入している市町がある。しかしながら、小野市が、全国同等以上の結果が出ているということは、デジタル端末の使用について、方向性は間違っていないということを確認した。
- ・小学校では、思考力、判断力、表現力を問う記述式の正答率が、今まで低かったが、今回は72.7%で、全国の64.6%を上回っており、文章や資料を読み解き記述する力、自分の考えを説明する力の向上が見られた。
- ・中学校の数学では、思考力、判断力、表現力を問う記述式の正答率が、30%を下回っている。また、数学と国語の記述式では、無回答が非常に増えている。小学校では、書く力がついているが、中学校に行くとそのが発揮されないという点を、細かく分析していく必要がある。
- ・質問紙の調査において、小野市の強みである非認知能力に関する質問が減っており、今回の調査でははっきりわからない部分が出てきたことが全体的な課題である。しかしながら、「自分には良いところがある」「いじめをしてはいけない」という質問に関しては、高水準のところで推移している。
- ・質問紙の調査結果で、中学校において、「夢や希望を持っている」「学校が楽しい」という項目で、初めて全国を下回った。そのため、中学校の取組について、考え直す必要があると考えている。

○今後の課題

- ①全国と比較すると高水準ではあるが、家庭学習の時間が右肩下がりになっている
- ②全国と比較すると高水準ではあるが、非認知能力が低下傾向にある
- ③中学校の数学において、授業改善を行ってきているが、改善の成果が見込まれていない

■【説明事項に対する教育委員会からの照会及び意見】

Q：全国学力学習状況調査の結果について、小学校では記述問題の正答率が高いのに、なぜ、中学校で大きく下がっているのが課題である。（教育長）

Q：カリキュラムが前倒しになっているということはないのか。（教育委員）

A：以前から比べると、例えば、5年生で勉強していたことが、4年生に下りてきている部分等は若干ある。（事務局）

Q：3年間で区切って、前年及び前々年も同じところが弱いのか、比較分析してはどうか。（教育委員）

A：到達度テストで、経年比較分析ができる。（教育長）

A：経年比較分析の結果、小学校については、低かった箇所が、ある程度リカバーできている。中学校については、数学が苦手な学年において3年間を振り返ってみると、2年前から苦手傾向で、改善が見込まれず、苦手なままであるところが課題である。（事務局）

Q：中学校では、毎年、数学において「基礎コース」と「標準コース」のどちらを選択するかを聞かれ、もう一度基礎に戻りたい子どもは、「基礎コース」を選択できたが、小学校ではどのようにされているのか。（教育委員）

Q：以前は、放課後学習をやっていたと思うが、今もやっているのか。（教育委員）

A：中学校は、子どもたちの習熟度や希望等に合わせて、クラス編成しているが、小学校では、そういったことはしていない。ただ、明らかに理解ができていない子どもたちについては、休み時間に教えたりしている。また、学校によっては、授業支援をしている教員免許を持った「学びサポートスタッフ」を配置しているため、保護者の了解を得た後、その方々に依頼して、取出し学習をしたり、別メニューでトレーニングしたりすることはある。放課後学習については、今もやっている。（事務局）

Q：小学校の算数で躓いたままいくと、中学校の数学では到底わからなくなり、そのまま、受験に突入してしまうと、どうすることもできない状況になってしまう気がする。そのため、例えば、分数の割り算で躓いた等、どこで躓いたのかがもっと詳細に分ければよいのと思う。（教育委員）

A：教科にはそれぞれ特性がある。算数や数学の場合は、基本の上に積み重ねていく教科であるため、例えば、割り算ができないと、その上の部分で崩れてしまう。そのため、算数や数学については、どこで躓いて、どこで段差ができていのかを明確にしていく必要がある。しかし、国語の場合は、小学1年生から中学3年生まで、スパイラルに繰り返し学習するため、例えば、主語・述語等の文法や倒置法・リフレイン等といった技法を、その学年で解らなくても、次の学年で学び直しができる教科である。（教育長）

A：基本的な計算については、おの検定の成果もあり、落としている子どもは少ないが、割合の問題に躓く子どもや、空間認知を伴う図形の問題が苦手な子どもが多い。しかし、一番気になっているのは、無回答が多いことである。わかるところまで書くという意欲がなく、早いうちから諦めてしまっていることが見て取れる。無回答の裏側にあるものを、学校が見ようとしないと改善点は見つからないため、学校には、なぜ無回答になったのかということをよく分析するよう依頼している。（事務局）

Q : 定期テスト等では、途中までもチャレンジする子どももいると思うので、部分点の配分等について、子どもたちに明確に伝えることは難しいのか。(教育委員)

A : 小学校の算数では、前に出て黒板に回答を書く時、以前は、完答しないと書けないような授業だったが、最近は、わかるところまで書いて、次にわかる友達に交代するような授業をしている。このような授業を繰り返し行っていると、自分のできるところまでチャレンジしようという雰囲気生まれ、自然に無回答も減ってくる。小学校で無回答が減っている理由の一つは、このような授業改善が進んでいるからだと考えられる。(事務局)

A : 小学校では、解答の仕方も一つだけではなく、子どもたちが、様々な答え方で解答している授業を見たことがある。中学生になると、恥ずかしさ等が出てくるのかもしれない。(教育委員)

Q : 前回の教育委員会連合会の研修で聞いた、立命館大学の宮口幸治教授の講演の中で、『境界知能』の子どもたちの認知機能の弱さは、認知機能強化トレーニングをすることで、改善が見られるようになる」と聞き、非常に興味を持った。このこととも関係しているところはあるのか。(教育委員)

A : 関係しているところはある。例えば、文章問題を読むことはできても意味がわからない、音読はできてもどこが大事なかわからないといった認知機能が弱い子どもはいる。宮口教授が提唱されている「認知機能強化トレーニング (コグトレ)」も一つの方法であるが、授業の中で、どんなところに目を付けてどのように発言をしたらよいかかわからない子どもたちもいるため、授業の中で、少しずつチャレンジして、それでいいんだよということを繰り返していくことも、トレーニングになるのではないかと思う。(事務局)

Q : 全国学力学習状況調査は、全小中学校、特別支援学校の全生徒が受けたのか。(教育委員)

A : 特別支援学校の子どもたちについては、受けることができるが、今年度は受けていない。特別支援学級の子どもたちについては、受けない場合もある。外国籍の子どもたちについては、事前に依頼をするとルビを振ったものが届くので、日本語の知識のある子どもたちは、受けている。(事務局)

Q : 家庭学習において、親の教え方は昔と今では違うのか。(教育委員)

A : 教え方は同じであるが、問われ方が違う。例えば、昔は「 $5 + 3$ はいくつか」と問われていたが、現在は「5にいくつ足したら8になるのか」「□と□で8を作りなさい」等といった問われ方をする。答えも「1と7」「2と6」「3と5」「4と4」といった多方面の解答の中から見つけていくような形になっている。(教育長)

A : 家庭学習のポイントとして、学力保持が大事な側面であることは、今までと変わ

らないが、家庭での学習習慣を保護者と一緒に作ることや、教え方が違って、子どもたちの知識に繋がり、それで解けたら子どもたちの自信に繋がるという側面が、昔と若干変わってきている。川島隆太教授も、「愛着形成」等とよくおっしゃるが、例えば、わからないところをお母さんに聞いてみて、お母さんもわからなかったが一緒に考えた等といったことが、学力をつける上では、大きな下支えになるのではないかと考えている。

しかし、現在、共働きの家庭や、ゲームやユーチューブの視聴等といった趣味を持つ保護者も増えている。また、子どもたちの娯楽も以前より増えたため、それに時間を割いて、家庭学習の時間が減っている。本来、家庭学習の時間が減ると、どこかの時間が増えなければいけないのだが、睡眠時間は増えていない。さらに、ゲームの時間が増えると、睡眠時間が減るのだが、睡眠時間は減っていない。このことから、例えば、家庭学習をしながらユーチューブを見たり、スマートフォンを触っている等、川島先生がおっしゃっている「スイッチング」「マルチタスク」で集中力が削がれている状況が起きているのではないかと心配している。(事務局)

Q：小野特別支援学校が、セーフティプロモーションスクールに取組まれており、視察を受けたと聞いたが、認定されるには、自分から手を挙げるのか、それとも事務局が調査して選出されるのか、どちらなのか。(教育委員)

A：大阪教育大学が中心に進めているセーフティプロモーションスクールにおいて、小野特別支援学校が、昨年度、全国で初めて、知的の特別支援学校で認定された。これは、文部科学省も後押ししている。当然、手を挙げて、学校の安全推進の取組みを進めていくのだが、取組の内容や様子を事務局が見て認定するため、かなり難しいものとなっている。(事務局)

Q：2学期の始め、非常に自殺が多い。もう一度、各校で自殺対応マニュアルを読んでおくように指示をしてほしい。また、不登校傾向で、1学期に学校から遠ざかっていた子どもへの対応や家庭への連絡をお願いしたい。(教育長)

A：承知した。(事務局)

■【教育総務課関連】

①おの幼稚園整備事業

(進捗状況)

- ・設計業務委託については、進捗率は80%で、最終調整を行っている。

(今後の予定)

- ・9月末を目途に最終調整を行い、10月以降、工事の入札手続きに入り、年内には、工事業者を決定する予定である。

(課題)

- ・ 11月試行の預り保育については、10月の定例教育委員会で詳しい内容について説明する予定にしている。

②学校施設長寿命化対策事業（旭丘中学校）

(進捗状況)

- ・ 校舎建設工事の進捗率は83.8%で、工程どおり進んでいる。本日、旭丘中学校9年生が、始業式後、自転車のヘルメットを被って、工事の現場見学会に参加した。基本的にレイアウトは変わっていないが、「保健室をグラウンド寄りに変更している」「校長室を会議室に変更し、職員室内に校長室を入れ込んだ」「新しくエレベーターを設置している」等の変化のある箇所の説明をした時は、歓声も上がった。
- ・ 体育館建替工事の進捗率は23%で、順調に進んでいる。体育館に合わせて、格技場の外壁がかなり傷んでいるため、その修繕やグラウンドの外構水路の整備等の検討をしている。

(今後の予定)

- ・ 校舎建設工事については、11月末、体育館建替工事の設計については、来年3月完了を目指して進めていく。

③学校施設バリアフリー化整備事業

(進捗状況)

- ・ 小野小学校エレベーター設置工事の進捗率は70%で、順調に進んでおり、10月からエレベーターを使用できる予定である。
- ・ 小野小学校の階段昇降機については、体育館への階段スペースが狭小で、昇降機の操作に支障があるうえに、車椅子の装着・脱着・移動に時間を要することから、購入は見送る方向で調整している。8月23日、保護者と面談し理解を得ている。
- ・ 市場小エレベーター設置工事实施設計業務は、進捗率20%で、順調に進んでいる。

④教育総務課情報

1 ICT教育推進事業

○校務用パソコン購入設置（125台）

5月16日入札落札 16,434,000円

オージヤ商事株式会社 5月17日～9月30日

→全てのパソコンの納品及び設定が終了。

○学校用NAS（ファイルサーバ）購入設置 9月25日入札予定

→学校用NASは、平成29年に導入してから7年が経過し、耐用年数を超えている。学校の業務データは、NASに保存し共有しており、NASが使用できなくなると業務に支障を来すため、不具合が出る前に更新を行う。

2 学校施設工事等関係

○市場小学校空調更新工事

5月7日入札落札 67,430,000円

中島水道設備株式会社 5月8日～令和7年1月20日

→夏休み中に工事完了の予定である。

○河合小学校空調更新工事

5月29日入札落札 63,030,000円

三輪設備 6月3日～令和7年1月31日

→夏休み中に工事完了の予定である。

○小野小・小野中学校空調更新工事設計業務委託

6月25日入札落札 11,550,000円

宮永建築設計事務所 6月28日～令和7年3月21日

→7月9日に現地調査が終了し、順次進めている。

○小野小学校LED化工事設計・監理業務委託

5月17日入札落札 2,805,000円

藤野一級建築設計事務所 5月20日～令和7年3月25日

○小野小学校LED化工事

8月6日入札落札 9,625,000円

有限会社 ハタヤ電設 8月8日～令和7年1月20日

○下東条小学校プール槽改修工事 8月28日入札予定

→下東条小学校のプールは、昭和44年に建設され、築55年が経過している。
現在、プール床面のシートが剥がれて浮いており、安全に授業を行うために改修を行う。

3 その他

○岸和田市立学校体育館空調設備視察（8月16日）

- ・岸和田市は1年間で35校全ての市立学校体育館に空調設備（冷暖房）を導入
- ・体育館空調設備の効果体験→室温27℃、湿度58%

- ・導入コストも比較的安い
- 小野市も同じ方法で、全ての市立学校体育館に空調設備（冷暖房）を導入できないか検討している。

○河合中学校大規模改修検討委員会の設置

- ・昭和46年、47年の建設で、築50年以上経過しているため、どのような改修を行うかを検討する。
- ・検討委員会の構成→保護者、PTA役員、学校評議員、区長、学校の先生等

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：旭丘中学校の仮設校舎賃貸借契約の2億4千万という費用は、仮設校舎を解体する費用も入ってこの金額なのか。（教育委員）

A：この金額は、仮設校舎を建設する費用、借りる費用、解体する費用の総額になっている。例えば、既存の校舎を使用しながら、運動場に新築で校舎を建てる場合、仮設校舎は不要だが、20億～30億円といった費用がかかる。それよりも、仮設校舎を建てて、既存の校舎を長寿命化工事でリフォームする方が、総コストは、安くなる。（事務局）

Q：学校用NAS（ファイルサーバ）購入設置について、7年毎の更新ということだが、今回初めての更新ということか。金額はいくらぐらいなのか。（教育委員）

A：今回が初めての更新である。教育委員会にも、同様にNASがあるが、5～6年経過してくると、パソコンと同様にフリーズし再起動させる等、不具合が多くなっている。更新するNASは、学校13校で、金額は約300万円である。（事務局）

A：個人のパソコンだと、10年ぐらい使っている人もいるが、7年くらい経ってしまうと、全てのウイルスに対しても脆弱になるため、4～5年で買い替えるべきである。（教育委員）

Q：体育館の空調設置の導入は、実現しそうなのか。（教育委員）

A：実現に向けて、検討を重ねていく。来年の夏には間に合うよう、特に中学校や特別支援学校については、優先的に進めていきたいと考えている。（事務局）

A：学校の体育館は避難所にもなる可能性もあるため、防災対策の観点からも、ぜひ実現したいと考えている。（教育長）

Q：小野まつりの時にミストのついた扇風機があったが、そういった暑さ対策は、学校の廊下や運動場等、屋外には必要ないのか。（教育委員）

A：学校が購入している大型扇風機を屋外で使用している部活動もあると思う。（事務局）

A：校舎の廊下等は床材を傷めてしまうので難しい。屋外については、休憩所を設ける、テントを張る等の対策を取っていく方がよいのではないかと考える。（教育長）

■【いきいき社会創造課関連】

①小野市詩歌文学賞・短歌フォーラム事業

○第17回小野市詩歌文学賞・第36回上田三四二記念「短歌フォーラム」
（進捗状況）

- ・7月9日、学生の部の募集要項を1,932校へ発送した。
- ・7月29日、一般の部の募集要項を発送（3,337件）、メール44件（大学短歌サークル）、市内へ区長便
→今回から初めて、LINEによる投稿を開始している。現在、一般の部の投稿数は約100件で、そのうちの5～6%が、LINEによる投稿である。
- ・7月30日、学生の部の下選考選者の依頼を行っている。

②図書館事業～新たな図書館のあり様（将来の夢構想）～

○市立図書館システム更新事業
（事業概要）

令和6年11月末にOSサポート及びメーカー保守が終了する図書館システムを更新し、図書館の安定した運営と業務の効率化を図る。また、システム更新に併せ、マイナンバーカードに関する法律改正に対応するためのシステム改修及び館内のWi-Fi環境整備を行う。

（進捗状況）

- ・図書館休館期間の11月19日から26日の間で、機器更新作業をする予定になっている。

③いきいき社会創造課情報

1 事業報告

【いきいき社会創造係】

○2025小野市成人式

- ・第1回小野市成人式実行委員会

日時：7月26日（金）19時00分～21時00分

委員：19名（構成）小野5人、河合7人、小野南3人、旭丘3人

- ・第2回小野市成人式実行委員会

日時：8月13日（火）19時00分～21時00分

内容：①実行委員長及び副実行委員長の選出

- ②成人式の名称 今回も「成人式」に決定
 ③テーマ「Be Real～それガーチャー！ほんまこれからやで～」
 ④社旗貢献活動 現在検討中（ハーフマラソンボランティア参加等）

〔図書館〕

開催日・期間	事業名	内容
7月20日（土） ～8月31日（土）	夏休み宿題応援展示 コーナーの設置	小学生を対象に、読書感想文におすすめの本をジャンル・学年ごとにカウンター前に設置。また、自由研究アイデアカードを児童展示コーナーに設置。さらに、カウンター前に工作の見本とトライやる・ウィーク生おすすめの本と手作りのPOPを展示
7月24日（水）	小野特別支援学校・ 夏季親子職場実習受入れ	児童2名、保護者を含む計4名を対象に、図書館業務（カウンター、返本、装備等）の体験を実施
7月25日（木）	初任者研修・社会体 験研修受入れ	小学校教諭1名を対象に、図書館業務の体験を実施
7月29日（月） ～8月8日（木）	サマースクールの実 施	小学生を対象に、一日図書館員体験、親子de図書館探検、読書感想文書き方教室の3コースを各2回、計6講座開催。計58名が参加

〔好古館〕

開催日・期間	事業名	内容	入館者数
7月6日（土） ～9月1日（日）	企画展「むかしの小 野写真展－明治・大 正・昭和の風景－」	今年12月で小野市制70周年を迎えるにあたり、小野市合併以前の小野市域の景観や人々の暮らし、出来事等を写真で紹介	918人 (8月4日現在)
7月10日（水） ～7月15日（月・祝）	企画展「いなみ野学 園能面部能面作品 展」	いなみ野学園能面部の部員が制作した能面を展示することにより、日本の伝統文化である能についての理解を深めていただく	256人

〔コミセン〕

○地域づくり協議会事業

地区	開催日	事業名	内容	参加者数
おの	7月 6日(土)	七夕箏コンサート	箏演奏会 (出演者) 折本大人樹、寺子屋の子どもたち、春千音会員	140人
	8月 4日(日)	ティラノサウルスレース	ティラノサウルスの着ぐるみ(空気で膨らませるタイプ)を着て走る競技。動いている姿が愛らしく、みんなが楽しめるイベント	34人
かわい	7月26日(金)	安全安心セミナー	女性防災グループ:クローバーのメンバーを講師に迎え、地域の防災を考える機会とする	36人
いちば	7月 2日(火)	独居高齢者等昼食提供支援事業	独居高齢者に昼食を提供し、アトラクション等を楽しんでいただく	80人
下東条	7月 3日(水)	第1回高齢者グラウンドゴルフ大会	地域の高齢者によるグラウンドゴルフ大会	120人
	8月 3日(土)	下東条地区夏まつり	地域住民の交流や地域の賑わいづくり。地域住民による盆踊りや地域3保育園による踊り、太鼓演奏やよさこい踊り等	2,000人

○コミセン自主事業

地区	開催日	事業名	内容	参加者数
おの	7月 4日(木)	脳活性・身体と心「らく楽講座」	18歳以上を対象とした「パステル和アート教室」「脳活性楽々ヨガ教室」	11人
	7月 18日(木)			
	7月11日(木)	筆文字アート教室	18歳以上を対象とし	15人

	25日(木)		た筆文字基礎を習う教室	
	7月17日(水)	子ども書道教室	小学3年生から6年生を対象とした毛筆教室	7人
かわい	7月6日(土) 20日(土)	子ども書道教室	小学生を対象とした硬筆と毛筆の教室	41人
きすみの	7月2日(火)	美姿勢ウォーキング	18歳以上を対象とした美しい姿勢と歩き方で健康増進を図る教室	10人
	7月9日(火) 16日(火) 23日(火)	やさしいヨガ教室	初心者でも取り組めるヨガにより、心と体をリラックスさせる	12人
いちば	7月23日(火)	サークル視察研修	灘五郎(見学)、喜楽館(落語鑑賞)	26人
おおべ	7月6日(土) 20日(土)	子ども書道教室	小学生を対象とした硬筆と毛筆の教室	26人
	7月8日(月) 22日(月)	やさしいヨガ教室	深い呼吸で心を静め、自分のペースで気持ちよく体を動かすヨガ教室	10人
	7月20日(土)	大人の未来塾～プログラミング的思考でChat-GPTを見てみよう～	Chat-GPTの動作概要を知る初心者向け講座	13人

2 今後の予定

〔いきいき社会創造係〕

○小野市文芸大会(主催:小野市文化連盟)

投稿数:181首(市内18首)※昨年度188首(市内25首)

表彰式 日時:9月21日(土)13時00分～

場所:小野市伝統産業会館 第1・2研修室

〔図書館〕

開催日・期間	事業名	内容
8月21日(水) ～8月23日(金)	県立小野高等学校インターンシップ受入れ	小野高等学校ビジネス探求科2年生1名を対象に、図書館業務の体験を実施

〔好古館〕

開催日時・期間	事業名	内容
8月7日（水） 10時～ 13時30分～	サマースクール「弥生土器づくりに挑戦！」	弥生時代の土器づくりを体験する
8月21日（水） 9時30分～15時 30分	サマースクール「古墳に大コーフン 親子体験ツアー」	親子で小野市の古墳や古代遺跡をめぐる
9月14日（土）～ 11月10日（日）	特別展「大部地区のあけぼのー明治・大正・昭和の風景ー」	発掘調査の成果等から大部地区の原始から中世の歴史を紹介
9月16日（月・祝） 17時～20時	観月茶会	好古館横柳風園でお月見をしながら、日本の伝統文化の茶道を楽しむ （先着200人）

〔コミセン〕

○地域づくり協議会事業

地区	開催日時	事業名	内容
おおべ	8月24日（土） 19時30分～ 21時	おおべ未来塾②「夏の夜空の観察会」	4年生理科授業「夏の夜空の星」を補完するため、地域づくりが学校支援として実施する
いちば	8月24日（土） 9時～12時	三世代交流ふれあい囲碁ボール大会	三世代（小学生、一般、高齢者）でチームを作り、囲碁ボールを通して交流を深める
きすみの	8月25日（日） 7時～9時	キバナコスモスの種まき	コミセンまつりに向け、コスモスの種まき及び周辺の草刈りを実施する

○コミセン自主事業

地区	開催日時	事業名	内容
おの	8月 1日（木） 13時～14時	脳活性・身体と心「らく楽講座」	18歳以上を対象とした「パステル和アート教室」「脳活性楽々ヨガ教室」
	8月 8日（木） 22日（木） 13時～14時	筆文字アート教室	18歳以上を対象とした筆文字基礎を習う教室

	8月21日(水) 15時15分～ 16時15分	子ども書道教室	小学3年生から6年生を対象とした毛筆教室
かわい	8月 3日(土) 17日(土)	子ども書道教室	小学生を対象とした硬筆と毛筆の教室
	8月30日(金) 19時30分～ 21時	自力整体教室	骨盤のズレを正すことにより、腰やひざの痛み、肩こり等の体の不調を改善する
きすみの	8月27日(火) 10時～11時 30分	自力整体教室	骨盤のズレを正すことにより、腰やひざの痛み、肩こり等の体の不調を改善する
	8月29日(木) 10時～12時	おいしいアイスコーヒーの楽しみ方	おいしいアイスコーヒーの淹れ方や楽しみ方を講師の実演を見ながら学ぶ
おおべ	8月 3日(土) 24日(土)	子ども書道教室	小学生を対象とした硬筆と毛筆の教室

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：小野市文芸大会について、詳しく教えてほしい。これは、短歌フォーラムとどう違うのか。(教育委員)

A：短歌フォーラムは、全国から多数の投稿があり、有名な先生方が選評するため、少し敷居が高いと感じておられる方もいる。小野市文芸大会は、文化連盟の文芸部が主催で、地域版短歌フォーラムのような形で開催している。投稿料も無料で、気軽に投稿でき、選評された先生から、入選した短歌1首ごとに講評も聞けるため、それが楽しいと言われる参加者も多い。(事務局)

■【スポーツ振興課関連】

①学校保健体育事業の推進

(進捗状況)

- ・ ひまわりカードによるバランスの良い朝食摂取率調査の結果を踏まえ、頂いたアドバイスや意見を参考に改善し、向上推進に努める。

②第11回小野ハーフマラソン2024

(進捗状況)

- ・ 8月5日時点での申込者数は、3,122人で、昨年度より15.3%増えている。
- ・ 本日、小野南中学校の始業式で、「Ring of Red ～赤星憲広の輪を

広げる基金～」から寄贈されたサイン入り車椅子の贈呈式を行った。今回、小野小学校、旭丘中学校にも各1台ずつ寄贈頂いている。

③スポーツ振興課情報

1 学校保健体育

○教職員健康診断

日 時：8月6日（火）、19日（月）終日
場 所：小野市役所2階 2-1～2-4会議室

2 社会体育

○市長激励会

日 時：8月1日（木）16時00分～17時00分
場 所：市役所5階 特別会議室
出席者：近畿・全国大会出場者13名

○第22回小野市ひまわり杯 少年野球大会

日 程：7月28日（日）、8月3日（土）、8月4日（日）
場 所：大池総合公園野球場、榊公園球場、河合運動広場
主 催：小野市スポーツ少年団
後 援：小野市教育委員会

3 今後の予定

○ソフトバレーボール大会 in ONO

日 時：9月15日（日）9時00分 開会
場 所：小野市総合体育館（アルゴ）アリーナ
主 催：小野市スポーツ推進委員会

○小野市内中学校体育祭・幼稚園合同運動会

・小野中学校 9月28日（土）
・小野南中学校 9月28日（土）
・旭丘中学校 9月14日（土）
・幼稚園合同運動会 10月5日（土）

○小野市中学校新人体育大会

日 時：9月21日（土） 予備日：9月22日（日）、23日（月・祝）
※陸上競技は、井上記念小野市陸上競技大会と兼ねて開催
場 所：アルゴ、アクト、アレオ、小野中学校等（小野市内公共施設）
主 催：小野市中学校体育連盟

○第51回小野市小学生陸上競技大会（兼井上記念小野市陸上競技大会）

日 時：10月6日（日）9時00分 開会

場 所：小野希望の丘陸上競技場

主 催：小野市小学校体育研究会・小野市陸上競技協会

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：10月開催の小野市小学生陸上競技大会について、予備日はないのか。（教育委員）

A：今のところ、予備日については聞いていない。（事務局）

4 協議事項

○部活動の地域移行の現状と課題（別紙詳細）

部活動の地域移行においては、小野市の9年生が令和10年には100人減少するという数字が挙がっており、部活動を存続しようと思っても、生徒だけでなく先生の数も減ることになるため、維持できないということが大前提にある。これを維持するためには、地域移行を進めていかなければならない。

地域移行については、大きく分けると「地域移行型」「地域連携型」「地域連携・地域移行ハイブリット型」の3パターンがある。「地域移行型」の「既存団体活用方式」「団体創設方式」については、小野市には受け皿となる団体がないため、今の現状では難しい。現在は、それぞれの種目毎に「地域連携型」の「部活動指導員配置方式」や「合同部活動方式」を採用し、部活動に取り組んでいるが、今後は、活動したいという子どもたちの希望や、教員の関わりを求める保護者の意向等を考慮すると、課題も多いが、緩やかに「拠点校方式」へとシフトする方向がベターではないかと考えている。

<「地域連携型」、「地域移行型」の比較>

	地域連携型（拠点校方式）	地域移行型
運営主体	学校（拠点校）	地域の団体（協会等）
指導者	拠点校の教員、部活動指導員 △拠点校教員の負担増 △他校教員は指導不可？ （顧問できない？）	地域の指導者、希望する教員 △指導者の質の担保 △指導者の報酬→受益者負担
参加者	各校、決められた拠点校に参加 ○小規模校の生徒も選択肢が増える	学校の枠なし
活動場所	拠点校（主に土日）	学校施設、地域の諸施設
活動方法	平日：自校？なし？	それぞれの団体ごとに設定

	△移動困難 △指導は？ 土日：全体練習	(ガイドラインに準ずる) 平日：夜？なし？ 土日：全体練習？
費用負担	現状の部活動どおり	月会費 →大会参加費、旅費、用具費 指導者報酬等
保険	災害共済給付 (スポーツ振興センター) ○後遺障害10年治療継続	スポーツ安全保険 (800円/年) △後遺障害180日治療継続
その他	・市総体(新人)の廃止 ・教員の兼職兼業	

■【教育委員からの照会及び意見】

Q：そもそも、部活動は、絶対入らなければいけないのか。また、地域移行については、運動部に限った話なのか。(教育委員)

A：入らなくてもよいが、ほとんどの子どもが部活動に入っている。地域移行については、メインは運動部の話であるが、例えば、団体で行う吹奏楽部等といった一部の文化部についても含まれる。(事務局)

A：親世代には、部活動に入っていないと内申が悪くなると思っている方がいる。しかし、それは過去のことであって、今の兵庫方式になってからは、内申の良し悪しには全く関係がない。そのため、子どもたちには、部活動に入らないという選択肢もある。(教育長)

Q：小野市としては、部活動を教育の一環であると考えているのか(教育委員)

A：学習指導要領には、部活動は教育活動の一つであるという表記があるが、カリキュラムに沿って教えるとは謳っていない。地域移行については、部活動を「余暇の自由な利用」という一番初めのスタートラインに戻しているようなイメージがする。ただし、保護者へのアンケートの中には、「部活動は先生が見てほしい」という意見も多数あるのが現状である。(教育長)

Q：「小野市の9年生が令和10年には100人減少する」ということであるが、教員は、どのくらい減るのか。(教育委員)

A：正確な数字は出せないが、大まかに計算することはできる。1クラス減ると、教員は1～2人減るため、100人減るのであれば、3クラスと考えて、3～4人減るということになる。(事務局)

Q：サッカー部が「合同部活動方式」になる時、人数の少ない学校同志を合同にする

という基本ルールがあると聞いた。他の部活に関しても、そういったルールはあるのか。(教育委員)

A : できるだけ、人数の少ない学校同志を合同チームにするというような基本のルールはあるが、全国的に緩和されつつある。どちらか一方のチームの人数が足りていないと試合に出られないという場合の救済措置となっているが、個別に検討するといった対応もしている。(事務局)

Q : 例えば、人数が多い学校と、人数が少ない学校を合同にするといったことはないのか。(教育委員)

A : 人数が多い学校と、人数が少ない学校を合同チームにしても大丈夫だが、子どもたちや保護者の合意が必要になる。(教育長)

Q : 人数が少ない学校同志で合同チームを作ったが、次の年に人数が増えたので、合同チームを解消するといったことはできるのか。(教育委員)

A : できる。現在は変更され、解消しなくてもよいことになっているが、「人数が満たされれば合同チームは解消する」といったルールがあった。ただし、人数が少ないため今までレギュラーであった子どもが、合同チームでは補欠になるという可能性も出てくる。(教育長)

Q : 部活動指導員は、ホームページ等で募集したのか。他市も同様なのか。(教育委員)

A : ホームページと市の広報で募集した。近隣市についても、同様に募集していると聞いている。(事務局)

Q : 部活動指導員は、小野市の中学校にある部活動の競技のみの募集なのか。(教育委員)

A : 学校が必要としている競技のみ募集している。今のところ、それ以外の新しい競技の希望等は、聞いている。(事務局)

Q : 一般企業に勤めている方で、部活動指導員として登録されている方は小野市にはいないが、他市にはいるのか。(教育長)

A : いると聞いている。(事務局)

A : 加東市には、テニスやバドミントン等のラケットのガットの企業があり、テニスやバドミントンの経験者が勤務されている。その方が空いている時間に、部活動の指導をされていると聞いている。もともと、東条にはバドミントン文化があり、バドミントン協会が開催している練習会に参加している子どもたちがたくさんいるため、そちらに力を入れているとも聞いている。(事務局)

Q : 「合同チーム方式」と「拠点校方式」では、大きな違いはあるのか。(教育委員)

A : 例えば、サッカーでは、現在、河合中学校と旭丘中学校が「合同チーム方式」でやっているが、「拠点校方式」に変更すると、どちらかの学校のサッカー部がなくなることになる。(事務局)

A : しかし、「拠点校方式」では、例えば、サッカー部がない学校においては、拠点校でサッカーができる選択肢が増えるメリットがある。(事務局)

Q : 「拠点校方式」では、拠点校以外の学校では、平日の活動はできないとのことであるが、自主練習はできるのか。拠点校からの教員派遣も可能とのことであるが、土日だけのことなのか。(教育委員)

A : 部活動は廃部になっているため、部活動としての練習はできないが、学校で自主練習することはできる。教員派遣については、学校長判断になるため、教員全員の理解を得たうえで、学校の状況を判断し、学校長が出張を許可すれば、平日にも派遣できる可能性はある。補足として、「拠点校方式」であれば、拠点校以外の学校でも、学校の備品及び設備を使用して、自主練習はできるが、「団体創設方式」で新しいクラブチームを設立すれば、学校の備品及び設備は使用できなくなる。使用したい場合には、使用料が必要となる。(教育長)

Q : 地域移行型の方式が進んで、部活動の費用負担が大きくなれば、家庭の生活も苦しくなる。そのため、部活動に入りたいのに、入ることができず、行き場がない子どもたちが増えるのも事実である。(教育委員)

A : 子どもを中心に考えると、どうにかして学校の部活動として、存続させていくのが良いのではないかと思うが、時代の流れも考えていく必要もあるので悩ましいところである。(教育委員)

A : 共働き夫婦も多くなっており、なかなか17時頃には帰宅できない。親のエゴかもしれないが、それまで、部活動で子どもを見ていてほしい気持ちはある。個人的には、クラブチーム等で自由にやれば良いのではないかと思うが、学校の部活動として存続させてほしいという「地域連携型」の方が、現実的であり、地域のニーズではないかと思う。(教育委員)

A : チーム競技か個人競技かでも違ってくるため、一つの方法を選択できない。種目や競技によって、先生の負担も少なく、子どもたちのやる気も削がれない状況が想像できればよいが、それが難しいため、なかなか頭の中がまとまらない。(教育委員)

Q : 部活動地域移行のあり方検討委員会のメンバーは、変更になったりするのか。どれくらいの頻度で会議をされているのか。(教育委員)

A : 異動により、2名変更になっている。8月に第4回目の委員会を開催した。次回、10月頃に第5回目を開催する予定にしている。(事務局)

Q : 生徒も先生も変わるので、それぞれの希望も変わってくると思うが、部活動地域移行の方式は、毎年、協議して決定するのか。(事務局)

A : 協議して決定したら、最低でも3年間は続けたいと思っている。(教育長)

5 次回定例教育委員会予定

令和6年9月30日(月) 午後1時30分 4階会議室4-1

6 閉会あいさつ 教育長